



若狭^{わかさ}めの^{のう}細工

貴石めの^{のう}の輝きと繊細な職人の細工は、
世界に誇る最高級品。

奈良時代のこと、玉を信仰

する海民族、鰐族(わにぞく)が、若狭一の神社がある土地に來ました。そして、神社の前に鰐街道を作り、玉をつくることを仕事としたのが、若狭めの^{のう}細工の始まりといわれています。

めの^{のう}とは、年輪状の模様をもつ半透明の石英という石のことです。この原石を200〜300度で焼くと美しく発色することがわかり、若狭の独特の焼き入れ技法を作り上げました。焼き入れ後は彫刻、成形、磨きの工程です。硬い原石に、時間をかけて彫刻・研磨を施していきます。

鰐族が始めた玉づくりですが、一時期衰退。数十年後、若狭の高山喜兵衛が、享保年間(1716〜1735)に浪花に出て、眼鏡屋に奉公中に玉造りの技を習得し、帰郷後『若狭めの^{のう}細工』を再興させ

ました。

明治になると中川清助が技術改良し、種々の工芸彫刻法を編み出しました。販路開拓や内外各地の美術博覧会への出展など広く情報発信も行い、国内外で好評を博するまでになりました。以来、技術の改良、デザインの研究を積み重ね、中でも愛らしい動物や仏像、香炉、杯、様々な装身具などに定評があります。

天然石だけがもつ光沢と、繊細で丹念に作られる細工は最高級品とよぶにふさわしい、味わい深い工芸品なのです。

ここがポイント

相手のため、自分のために^{のう}を贈る。

めの^{のう}の“赤”は、祝いごとに似合います。結婚の引出物や贈答品として、置物やアクセサリーの利用が多いようです。また、ぐい飲みやお猪口、箸置きなど、小さなめの^{のう}細工のコレクションも素敵です。緑色や縞模様もあり、特に縞模様はかなり貴重なものです。(上写真:高鳥純一作)



まるで動き出しそうな魚や動物の細かな描写。職人自らがその対象物を観察、勉強した上で製作に取りかかります。ただ残念ながら、これだけの細工ができる職人も、少なくなってきたのが現状です。まさにめの^{のう}細工は貴重品なのです。



赤くなった原石を、泥とろくろに付けた大小様々な鉄コマで削りながら、飾りをつけていきます。「透けるような輝きは、磨き方ひとつで変わります。研磨作業は真剣勝負です」とも。



問い合わせ/小浜市役所産業部商工観光課
住所/福井県小浜市大手町6-3
TEL/0770-53-1111
FAX/0770-52-1401
昭和51年6月2日指定